

## (1) 中焦の急性症状

中焦の急性期には、中焦に元から歪みや水毒があり、その歪みや水毒が上衝する邪気に反応して、中焦で症状が出る。表位、上焦にも症状が出るが、中焦の症状の方が激しい。

そのため、中焦の横輪切り部分、特に背中側と、関連する足の陰陽経にツボが出る。

中焦で症状が出ている原因は、毒性が増大した水毒とそこから発生する邪気なので、上衝する邪気を体の外に出すこと、中焦で暴れている邪気の出やすい道筋を作ることが大切。邪気が減れば水毒の毒性は弱まり、排出可能になる。

原因は、先ず中焦の水毒、それと、下焦の瘀血、虚などが多い。それで、慢性期にはそれらの処置も必要だが、応急処置では、その施術で症状が悪化する恐れがあり、しないのが基本。

## (2) 基本処置

邪気が主に蠢いているのは中焦なので、そこから邪気が体の外に出ていきやすい道筋を作っておく(ルート工作)。ルート上の上焦に関係する手陰経や、中焦に関係する足陰陽経の末端へ引き、中焦の横輪切りの背中側に引く。手早い刺鍼が大切。

## (3) 実技と手順

そのとき患者さんが取っている姿勢が基本。背を丸めた座位や横向き寝が多い。体の動きが激しい場合には、接触鍼か提鍼で施術した方が無難。

### 〈1〉急性期の応急処置

手順の基本は、次の通り。

1. 上衝を治める：手甲に引き鍼
2. 手足に引く i. 手陰経の手首近くに引き鍼  
ii. 足に陰経陽経の順で引き鍼
3. 陽に引く：中焦背中側に引き鍼
4. 上衝を治める i. 表位の散鍼  
ii. 再度、手甲に引き鍼

途中で状況により必要な処置を付け加える。

#### 1. 上衝を治める：手甲に引き鍼

先ず頭に上がった邪気を降ろすため、頭の熱い所に関係する手甲に引き鍼。手早く速刺徐抜で刺鍼し、邪気の波が来終わったときに抜きあげる。

#### 2. 手足に引く

##### i. 手陰経の手首ちかくに引き鍼

頭が熱かった側の内関の辺りに引き鍼。内関は主に上焦に関係するが、中焦の邪気も引けるし、

上衝した邪気が上焦を通るから。手早さを加えた除刺徐抜で刺鍼し、邪気の波が来終わったときに抜く。

##### ii. 足に陰経陽経の順で引き鍼

基本的に足首から先。陰経は、商丘、公孫、陰白など。陰泊は接触鍼でもよい。漏谷を使うのも可。手早さを加えた除刺徐抜で刺鍼。陽経は、内庭などを手早く速刺徐抜で刺鍼。

共に、邪気の波が来終わったときに抜く。

## 3. 陽に引く：中焦背中側に引き鍼

背を丸めて耐えていることが多く、丸みを見て、最も出っ張った辺りにツボを探す。昔から「背の七、九、十一」「胃の六灸」とか言われる。華陀経に多いが、左右差があるときには痞根にも出る。手早く、が、しっかり、次の波が来ないうちに蠢く邪気を全て抜き出すように刺鍼。

## 4. 上衝を治める

### i. 表位の散鍼

表位の熱い所を探し散鍼。先ずは肩胛骨・肩・項(うなじ)、次に鎖骨～前頸部、そして頭・額。置く方はユックリ、離す方を速く。

### ii. もう一度、手甲に引き鍼

終わりに、また、手甲に引き鍼して後始末。

### 〈2〉子供の腹痛

提鍼で上記をするが、提鍼か指圧か灸で背中の中ツボだけ刺激しても良くなることが多い。

横行結腸と下行結腸の曲がり角の辺りの左上腹部に、温めるような感じで手をしばらく当てても良くなることが多い。

### 〈☆〉数時間以内に復活したら

応急処置後数時間以内に痛みが同じくらい復活したら、器質性病変を疑い救急医療へ。

## 要点

- ① 中焦に歪みがあれば、中焦の急性症状が出る
- ② 手甲・内関に引いたあと、足先の陰陽に引く
- ③ 「背の七、九、十一」に引く